



第19回例会報告(11月13日)

【出席報告】

・会員数 59名 ・出席数 29名 ・欠席数 30名
 ・当日出席率 55.32% ・前々回修正出席率 94.00%
 <欠席会員> 檜垣(主)、檜垣(巧)、飯、飯沼、菅、吉良、小堀、久米、栗西、前川、松田、光藤、村上(裕)、越智(務)、尾越、大澤、竹田、田中、渡辺(易)、矢野、吉武
 [免除会員] 青野、原(真)、原田、門田、松本、村上(敬)、佐伯、坂本、八木
 <10/30欠席補填> (10/27今治北)伊藤、菅、川上、松木、西本 (11/10高松南)檜垣(俊)

親睦活動委員会報告・栗西・近藤会員合同歓迎会のご案内：11月25日(火)19:00～、今治国際ホテル23階、ラウンジ23にて開催。会費：5,000円。皆様のご参加お待ちしております。

職場訪問例会 ～波方国家石油ガス備蓄基地事務所を訪問～

西信正男職業奉仕委員長：関係各位のお力添えで職場訪問例会ができ、誠にありがとうございます。波方国家石油ガス備蓄基地はご存じのようになりかなり広大で、バスで入ります。見学は人気があり希望者が多いようです。

波方国家石油ガス備蓄基地事務所 総務課長代理 石田崇氏：波方国家石油ガス備蓄基地の名前の通り、国家で石油ガス(LPガス)を備蓄する基地を建設しています。日本の備蓄は、民間と国家の二つに分かれています。民間備蓄は、「前年輸入量の約50日分(190万ト)を確保せよ」との法律があり、1988年に達成しました。その2年後の1990年に湾岸戦争が起き「民間備蓄だけでは心もとない」として、国家で150万ト(40日分)を備蓄することになりました。全国5カ所の国家備蓄基地ができると90日分になります。備蓄方法は、地上タンク方式と地下岩盤タンク方式の2種類があります。地上タンク方式は地上に二重構造のタンクを設置してLPガスを貯めます。この方式は石川県の七尾基地(25万ト)と長崎県の福島基地(20万ト)、茨城県の神栖基地(20万ト)の計65万トで、2005年に完成しています。残りの85万トは地下の岩盤をくりぬいて貯める地下岩盤タンク方式で、岡山県の倉敷基地(40万ト)とこの波方基地(45万ト)で備蓄します。地下岩盤タンク方式の原油備蓄は菊間など全国3カ所で稼働していますが、日本ではLPガスは初めてです。すべて完成するとLPガスの備蓄では世界1位か2位になります。

波方基地の地上の敷地面積は4畝です。地下180㍍のところ、プロパン用貯槽2基(30万ト)と、プロパン・ブタン兼用貯槽1基(15万ト)が建設されています。掘削工事は昨年6月に終了し、218万立方㍍の土砂が発生しました。卵形の断面はいずれも幅26㍍、高さ30㍍で、高さは9階建てか10階建てのビルに相当し、今治城の天守閣がすっぽり入ります。プロパン用貯槽は長さ485㍍、プロパン・ブタン兼用は430㍍あります。完成予定は2010年8月です。LPガスを液体の状態に岩盤内に貯蔵するためには常温(20℃)で0.97メガパスカル(MPa)以上の圧力が必要となります。標高-150㍍の地下は外気の影響をほとんど受けず年中一定のほぼ20℃です。標高-120㍍の水圧は1.2MPaあり、水圧でガスの漏洩を防ぎます。工費は985億円で、地上タンク方式の3基地(65万ト)合わせて1,000億円とほぼ同額です。しかし、ランニングコストは地下タンク方式の方が安くなります。

(この後大型バスで螺旋状のトンネルを約2㍍下って入坑し、地下タンクを見学しました。)



<ゲスト> 波方国家石油ガス備蓄基地事務所 総務課長代理 石田崇様

波方国家石油ガス備蓄基地事務所にメガネの忘れ物がありました。事務局までお問い合わせ下さい。

次回例会(11月20日)

【世界社会奉仕委員会アワー】国際交流協会 矢野みづほ氏「国際交流のあゆみin Imabari」
 <会員誕生祝> 大澤正尚氏(11/13) 栗西伸彰氏(11/13) 渡邊道信氏(11/26)
 <夫人誕生祝> 金森節生氏(11/16) 前川典和氏(11/16)
 <結婚記念祝> 前川典和氏(11/23)
 <入会記念祝> 越智 務氏(11/24) 高木幹男氏(11/25) 青野明高氏(11/26)
 [国際ホテル]